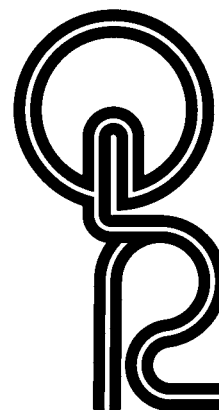


QR Newsletter



第四紀通信

Vol. 31 No.2, 2024



「令和6年能登半島地震」における新潟市西区の液状化被害の様子
 新潟砂丘の南の縁で液状化被害が発生し、特に西川の攻撃斜面になっている箇所周辺での被害が酷かった。側方流動によりローテーションして、郵便局が後ろ向きに、その奥の建物が前向きに傾いている。(2024年3月28日小荒井撮影)

Vol. 31 No. 2

May 1, 2024

2024年大会案内(第3報)..... 2	学生会員継続届け提出のお願い.....11
JpGU2024案内(第3報)..... 6	評議員会案内.....11
学会賞・学術賞受賞記念講演会報告 9	執行部会議事録..... 12
海洋コア岩相記載武者修行イベント参 加報告..... 9	評議員会議事録..... 15
	会員からのお知らせ..... 22
	会員消息..... 24

◆日本第四紀学会 2024 年大会案内 (第3報)

日本第四紀学会 2024 年大会は、一般研究発表 (口頭およびポスター)、シンポジウム、専門巡検を中心に、東北大学青葉山北キャンパスを会場として開催します。ただし、今後の社会状況によっては、一部変更・中止になることがあります。一般研究発表、各種参加申込等については、昨年と同様に大会専用サイトからの申込みとなります。大会に関する情報は随時、学会メーリングリストと学会ウェブサイトを通じてお知らせします。

1. 全体概要

開催会場：東北大学青葉山北キャンパス (〒980-8578 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉 6-3)

最寄駅：仙台市地下鉄東西線 青葉山駅 (仙台駅から 10 分)

<https://www.tohoku.ac.jp/japanese/profile/campus/01/aobayama/>

開催日程 (全期間)：2024 年 8 月 29 日～9 月 2 日

8 月 29 日 (木) アウトリーチ巡検、評議員会

8 月 30 日 (金) 一般研究発表 (口頭およびポスター)

8 月 31 日 (土) 一般研究発表 (口頭およびポスター)、総会 (ハイブリッド形式)、懇親会

9 月 1 日 (日) シンポジウム (公開/ハイブリッド形式)

9 月 2 日 (月) 専門巡検

共催：東北大学大学院理学研究科

2. 各種締切日

・一般研究発表の申込・講演要旨原稿提出締切：7 月 11 日 (木) 17 時

・公開シンポジウムの講演要旨原稿提出締切：7 月 11 日 (木) 17 時

・巡検参加申込締切：8 月 1 日 (木) 17 時

・参加申込締切：8 月 23 日 (金) 17 時

・プログラム公開：8 月 2 日 (金) (予定)

※巡検参加は申込順となるため、早期に締切ることがあります。

3. 申込方法

大会専用サイト <https://sites.google.com/view/2024jaqua/> から申込んでください。申込方法の詳細については、大会専用サイトを通じてお知らせします。大会専用サイトは準備ができ次第、学会メーリングリスト等で周知します。サイトオープンは 6 月初旬の予定です。

1) 発表形式と発表時間について

- ・一般研究発表には、口頭発表とポスター発表があります。筆頭発表者 (資格は会員であること) としては、口頭発表およびポスター発表について、それぞれ 1 人 1 件の発表申込が可能です。
- ・口頭発表の時間は 1 件 15 分 (質疑応答時間含む) です (発表件数によって変更の可能性があります)。ポスター発表にはポスターショートトークとコアタイムを設けます。
- ・発表形式は申込時に希望する方を選択してください。発表件数によっては、必ずしも希望の形式にならない場合もあります。あらかじめご了承ください。

2) 参加・発表申込と講演要旨の提出方法

- ・大会参加には事前申込が必要です。また、発表を行うには講演要旨の提出が必要です。
- ・非会員の方で筆頭著者として一般研究発表を希望される場合は、至急入会手続きをお願いします。日本第四紀学会への入会手続きは、学会ウェブサイト「入会・会費の支払いについてのご案内」をご覧ください。
- ・講演要旨のテンプレートは大会専用サイトよりダウンロードできます。
- ・講演要旨集 (無料、電子版のみ) は大会前に大会専用サイトからダウンロードできます。
- ・講演要旨の原稿は A4 で 1 ページ (図表掲載可) です。「講演要旨原稿の書き方及びテンプレート」にある書き方にそって作成してください。講演要旨作成の際、テンプレートのフォントや行数などの設定は変更しないようにしてください。

- ・会員のうち 2024 年 7 月 1 日現在で 35 歳以下の方は若手発表賞に、学生・大学院生の方は学生発表賞にエントリーできます（両方へのエントリーはできません。また、筆頭著者でない場合はエントリーができません）。エントリー希望の方は、申込フォームの該当箇所に記入してください。

4. 参加費

- 1) 大会 会員：1,000 円、非会員：2,000 円、大学院生・学部生（会員・非会員問わず）、70 歳以上の会員および 9 月 1 日のみ参加する方：無料
- 2) 懇親会 一般（8/1 までの事前予約）：5,000 円、大学院生・学部生：3,000 円、8/2～当日までの申込：6,000 円
- 3) 巡検 アウトリーチ巡検：100 円、専門巡検（会員のみ）：6,000 円
※巡検参加費にはレクリエーション保険代が含まれます。

5. 詳細スケジュール・会場

8 月 29 日（木）	8:30～13:30	アウトリーチ巡検 （時間未定）	評議員会
8 月 30 日（金）	9:00～		受付開始
	9:30～11:30		一般研究発表
	11:30～12:00		ポスターショートトーク
	13:00～14:00		ポスター発表
	14:00～17:30		一般研究発表
8 月 31 日（土）	9:00～		受付開始
	9:30～11:30		一般研究発表
	11:30～12:00		ポスターショートトーク
	13:00～14:00		ポスター発表
	14:00～15:45		一般研究発表
	16:00～17:30		総会
	18:00～		懇親会
9 月 1 日（日）	9:00～		受付開始
	9:30～12:30		シンポジウム
9 月 2 日（月）	9:00～17:00		専門巡検

会場：東北大学理学研究科合同 C 棟および北青葉山厚生会館
 青葉サイエンスホール：一般研究発表、総会、シンポジウム
 多目的室：展示・休憩室
 ロビー：ポスター会場
 北青葉山厚生会館：懇親会

6. シンポジウム「東北の自然災害と第四紀学：最近の研究成果とこれから」

趣旨：東北地方では太平洋プレートの沈み込みに関係して、地震や噴火、地殻の変形、斜面変動をはじめとする多種多様な自然現象が生じています。こうした自然現象（ハザード）が人間社会に作用することにより、2011 年の東日本大震災に代表されるような災害（ディザスター）が引き起こされてきました。この公開シンポジウムでは、第四紀学やその近接分野の専門家から、東北地方で近年発生した各種の自然災害に関する研究成果を紹介いただき、今後も頻発することが予想される災害に対して、第四紀学がどのように関わっていくのかを議論します。

（プログラム）

- 9:30～9:35 趣旨説明 堀 和明（東北大）
- 9:35～10:05 地形発達史から考察する東北日本北部における近年の豪雨災害 小岩直人（弘前大）
- 10:05～10:35 大規模地すべりがもたらす奥羽山脈の多様な自然景観とその維持機構 佐々木夏来（明治大）

大会案内 (第3報)

- 10:35～11:05 2011年の東北沖津波に関する地質学的理解とその古地震研究への展開 菅原大助(東北大)
11:05～11:15 休憩
11:15～11:45 東北地方太平洋岸における最近数千年～10万年間の地殻変動 丹羽雄一(慶応大)
11:45～12:15 東北地方の活火山における volcanic mass flows: 発生履歴・流れの特徴・災害予測 片岡香子(新潟大)
12:15～12:30 総合討論
※プログラムは今後変更になる可能性があります。

7. 巡検

各種巡検の情報は2024年4月15日現在の情報です。すべての巡検は天候等によっては変更・中止・延期の可能性があります。実施内容や申込方法の詳細などは今後大会専用サイトを通じて最新の情報を掲載します。

1) アウトリーチ巡検「仙台市内の地形散策」(8月29日)

内 容: 仙台市中心部は広瀬川に沿って複数の段丘面が分布し、さらに活断層である大年寺山断層、長町一利府線が通り、街の土台となる地形を作り出しています。これらの地形をみて土地の成り立ちを考え、さらに仙台の街の歴史や環境を見ていきたいと思えます。

案内者: 目代邦康、伊藤晶文(東北学院大)

日 時: 8月29日(木) 8:30～13:30

方 法: 8:30 地下鉄東西線「国際センター駅」集合。徒歩移動、一部地下鉄を利用。13:30 地下鉄南北線「五橋駅」解散

行 程: 地下鉄東西線国際センター駅—千貫沢遊歩道(段丘堆積物)—澱橋(広瀬川)—一角五郎周辺(段丘地形とそれを刻む谷)—一定禅寺通(街路樹、ヒートアイランド現象)—勾当台公園駅—(地下鉄)—五橋駅—荒町(大年寺山断層、長町一利府線)—東北学院大学五橋キャンパス(コースの振り返り)—地下鉄南北線五橋駅解散
コースの最後に、東北学院大の教室で、解説と振り返りの会を行います。

定 員: 20名(非会員優先、親子可、定員に空きがあれば会員も参加可能)

参加料金: 100円(保険代のみ)。途中地下鉄を使って移動します。各自ご負担ください(210円)。

※熱中症対策として、水筒やペットボトル飲料の持参、帽子着用を推奨します。

2) 専門巡検「栗駒山の火山活動と岩手・宮城内陸地震」(9月2日)

内 容: 栗駒山麓地域は2008年岩手・宮城内陸地震の震源地・被災地となりましたが、過去には栗駒山の火山活動や大規模地すべりなど、多様なハザードも数多く経験してきたと考えられる地域でもあります。この巡検では、栗駒山の東麓において2008年岩手・宮城内陸地震が地形・地質に残した痕跡を観察するとともに、この地域の景観を形作ってきた栗駒山の火山噴出物などについても見学する予定です。

案内者: 遠田晋次、高橋尚志(東北大)

日 時: 9月2日(月) 8:00～18:00

方 法: 日帰り、貸切バスでの移動

行 程: 地下鉄東西線「国際センター駅」前・せんだい青葉山交流広場集合(8:00)—須川温泉周辺(栗駒山の火山活動と岩屑なだれ)—関市祭時地区(2008年岩手・宮城内陸地震の災害遺構と河成段丘)—市野々原地区(地すべり河道閉塞跡)—岡山地区(地表地震断層地形と露頭)—柵木立地区(地表地震断層)—JR「仙台駅」解散(18:00 予定)

※天候等によってルートや行程は変更になる可能性があります。

定 員: 22名(先着順・会員限定)

参加料金(予定): 6,000円(バス代、資料代、保険代込)

※昼食は各自事前にご準備ください。

※水筒やペットボトル飲料の持参、帽子着用などの熱中症対策を各自でお願いします。

※一部、登山道や足場が悪い場所を徒歩で移動します。長袖、長ズボン着用の上、登山靴などでご参加ください。

※集合場所まで、解散場所からの交通費は自己負担となります。

8. 大会参加者への注意事項

1) 来場方法

公共交通機関をご利用ください。

地下鉄運行情報

<https://www.kotsu.city.sendai.jp/unkou/index.html>

2) 昼食は各自でご準備ください。学内には食堂やコンビニなどがありますが、近隣に飲食店はございませんので、ご注意ください。食堂は土・日休業です。

9. 大会実行委員会および行事委員会

大会実行委員長：堀 和明（東北大）

実行委員：浅海竜司、石澤亮史、井龍康文、高橋尚志、遠田晋次、山田 努（東北大）、伊藤晶文、目代邦康（東北学院大）、西城 潔（宮城教育大）

行事委員会：池原 実（高知大・行事委員長）、木村英人（株式会社ソイルシステム）、久保純子（早稲田大）、中塚 武（名古屋大）、西澤文勝（神奈川県立生命の星・地球博物館）

連絡先：2024年大会実行委員会事務局

〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉6-3 東北大学大学院理学研究科 堀 和明

Tel：022-795-6647

メール：kazuaki.hori.b6 (at) tohoku.ac.jp （(at)を@に変える）

会場案内図





◆日本地球惑星科学連合 2024 年大会のお知らせ (第3報)

日本地球惑星科学連合 2024 年大会 (JpGU2024) は、2024 年 5 月 26 日 (日) から 5 月 31 日 (金) までの 6 日間、現地開催 (会場: 幕張メッセ) とオンライン開催をミックスしたハイブリッド方式で開催されます。

詳細および最新情報は、JpGU2024 ホームページ (http://www.jpogu.org/meeting_j2024/) をご確認ください。

【今後の主な日程】

5 月 16 日 (木) 23:59 参加登録通常締切

この日までに参加登録を済ませた方は、5 月 17 日の予稿公開と同時に Confit システムにログインができるようになります。

5 月 17 日 (金) ~ 5 月 30 日 (木) 23:59 参加登録開設期間

Confit へのログインは登録いただいた翌日 9:00 以降になります。現地参加される場合も来場前日に必ず大会参加登録をお済ませ下さい。

5 月 17 日 (金) 予稿 PDF 公開

5 月 26 日 (日) ~ 31 日 (金) JpGU 2024 開催

【日本第四紀学会の関わる学協会セッション】

H-QR05 「第四紀：ヒトと環境系の時系列ダイナミクス」(日本語または英語)

口頭発表とポスター発表ショートトーク：5 月 30 日 (木) の AM1-PM1 (@ 国際会議場 106)

ポスター発表コアタイム：5 月 30 日 (木) の PM3

S-SS11 「活断層と古地震」(日本語または英語)

口頭発表とポスター発表ショートトーク：5 月 26 日 (日) の AM1-AM2 (@ コンベンションホール A)、PM2 (@ コンベンションホール B)

ポスター発表コアタイム：5 月 26 日 (日) の PM3

H-DS09 「人間環境と災害リスク」(日本語または英語)

口頭発表とポスター発表ショートトーク:5月27日(月)のAM1-AM2 (@ コンベンションホール A)
ポスター発表コアタイム:5月27日(月)のPM3

U-03「人新世・第四紀の気候および水循環」(日本語または英語)

口頭発表とポスター発表ショートトーク:5月28日(火)のAM1-AM2 (@ 展示場特設会場)
ポスター発表コアタイム:5月28日(火)のPM3

A-HW22「流域圏生態系における物質輸送と循環:源流から沿岸海域まで」(英語)

口頭発表とポスター発表ショートトーク:5月30日(木)のAM1-PM2 (@ 国際会議場 201A)
ポスター発表コアタイム:5月30日(木)のPM3

※それぞれの時間帯は以下のとおりです。

AM1:9:00-10:30、AM2:10:45-12:15、PM1:13:45-15:15、PM2:15:30-17:00、PM3:17:15-18:45

【第四紀学会単独・主催セッションプログラム】

紙面の都合上、一部省略しての掲載となります。詳細については大会 HP を参照ください。

- H-QR05『第四紀:ヒトと環境系の時系列ダイナミクス』(コンビーナ:白井正明、横山祐典、吾妻 崇、里口保文) 5月30日(木)

口頭発表:

- 9:00 ~ 9:15 津田和樹ほか:気候条件に対する世界的な人口分布の変遷
- 9:15 ~ 9:30 北村 繁ほか:火山ガラスの WDS 分析からみた土器製作への火山灰利用 ~中米・エルサルバドル、チャルチュアパ地域のウスルタン様式土器の分析事例~
- 9:30 ~ 9:45 権田拓弥ほか:バイオマーカーからみた中国河姆渡文化期とそれ以前の姚江平野における気候・植生変化
- 9:45 ~ 10:00 鈴木健太ほか:中央アナトリア、カマン・カレホユック遺跡近傍の古沼地堆積物による前期青銅器から鉄器時代の局所的な古環境復元
- 10:00 ~ 10:15 佐竹 渉ほか:中央アナトリア地方に位置するカマン・カレホユック遺跡内の炉で採取した炭から考察する金属加工:予察的研究
- 10:15 ~ 10:30 多田隆治ほか:Eski Acigol 湖跡の掘削に基づく過去~5000年間の中央アナトリア古環境変動史
- 10:45 ~ 11:00 丹羽雄一ほか:東北地方太平洋岸南部・真野川下流域における完新世地殻変動
- 11:00 ~ 11:15 館野宏彰ほか:関東平野北部、思川・渡良瀬川流域における MIS6 以降の地形発達過程と海成層・河成層の高度に基づいた地殻変動速度評価
- 11:15 ~ 11:30 神徳理紗ほか:高知県浦内湾における人新世の重金属濃度変動とその起源
- 11:30 ~ 11:45 中澤 努ほか:首都圏の台地を構成する地層の層相変化に伴う地盤震動特性の変化

ポスター発表:

- P01 青木かおりほか:青森県野辺地町目ノ越の海食崖で見られる海成層と開析谷の年代と形成過程
- P02 五反田克也:東北地方の過去2万年間の時空間的なバイオーム変遷の復元
- P03 谷川 亘ほか:プラスチック製玩具(キンケシ)が秘める近現代の地質学的年代環境指標の潜在性
- P04 山田 桂ほか:霞ヶ浦南東部における過去6000年間の粒度変化
- P05 渡邊千隼ほか:霞ヶ浦における過去6000年間の古環境変遷と海水準変動との関連
- P06 小松原純子ほか:常時微動データを用いて微高地を判別する試み:埼玉県大宮台地北部~加須低地の例
- P07 白井正明ほか:基質の岩種組成から考える相模川上流域での富士相模川ラハール堆積物の特徴
- P08 山田和芳ほか:トトロの森はいつできたのか? -狭山丘陵三ヶ島湿地における古環境調査-
- P09 佐々木俊法ほか:御前崎地域における阿蘇3テフラの発見(速報)
- P10 葉田野 希ほか:諏訪湖堆積物コアに認められる縞状粘土層の特徴と成因
- P11 龍前 葵ほか:穂高連峰・蒲田川右俣谷槍平のモレーン状地形を覆う斜面崩壊物質
- P12 山田佑哉ほか:阿武川-佐波川の河川争奪、佐波川上流域における地形発達史
- P13 多田賢弘ほか:アナトリア中部カマン・カレホユック遺跡における、前期青銅器時代から鉄器時代に渡るゴミ堆積物の層序復元

● S-SS11 『活断層と古地震』(コンビーナ:小荒井 衛、佐藤善輝、矢部 優、安江健一) 5月26日(日)
口頭発表:

- 9:00 ~ 9:15 坂中伸也ほか:秋田県男鹿半島申川断層における電気探査
9:15 ~ 9:30 岡田真介ほか:長町一利府線断層帯大年寺山断層を横切る S 波極浅層反射法地震探査
9:30 ~ 9:45 石山達也ほか:森本・富樫断層帯の深部構造探査
9:45 ~ 10:00 江尻智香ほか:電気探査による猿投山北断層帯の比抵抗構造の推定
10:00 ~ 10:15 遠田晋次ほか:令和 6 年能登半島沖地震と半島南東岸の短い活断層 — 短い活断層は起震断層になりえるか (招待講演)
10:45 ~ 11:00 村越 匠ほか:小笠原硫黄島における断層近傍での常時微動 H/V スペクトル比の方位依存性
11:00 ~ 11:15 小荒井 衛ほか:常時微動計測から知る宮野原断層の地震防災的な特徴
11:15 ~ 11:30 信川昂太郎ほか:島根県浜田市周辺で報告されているリニアメントの断層露頭と地質学的断層変位
11:30 ~ 11:45 大上隆史ほか:小郡断層海域延長部における活断層調査
11:45 ~ 12:00 山根悠輝ほか:活断層は地表付近で同様の地層の変位・変形を繰り返すのか— 2016 年熊本地震前の布田川断層トレンチの再掘削からの考察
15:30 ~ 15:45 Cheng-Hung CHEN ほか: Offshore seismogenic structure database of the Taiwan Earthquake Model (TEM)
15:45 ~ 16:00 近藤久雄ほか: Displaced pre-existing trenches by the 2023 Mw7.8 earthquake on the East Anatolian fault system, Turkey
16:00 ~ 16:15 松浦律子:菅原道真の比類無い能力は西暦 887 年 8 月仁和地震非南海地震説を補強する
16:15 ~ 16:30 藤野滋弘: 1361 年正平地震の破壊域は静岡県沖まで及んでいたか? (招待講演)

ポスター発表:

- P01 岡田真介ほか:折爪断層における浅層反射法地震探査
P02 西川 治ほか: UAV レーザ測量による申川断層の変位微地形検出と掘削による浅部地下構造の推定
P03 下茂道人ほか:青沢断層における大気中メタン濃度のアノマリについて
P04 太田 麗ほか:糸魚川—静岡構造線北部神城断層における詳細地形計測を用いた古地震イベントの変位量復元
P05 安江健一ほか:阿寺断層における UAV レーザ測量の適用
P06 塚原柚子ほか:伊豆半島城ヶ崎海岸の石灰質生物遺骸から推定される地殻変動の特徴
P07 大上隆史ほか:熊本城公園に推定される立田山断層周辺の地質構造
P08 太田耕輔ほか:熊本城公園に推定される立田山断層周辺の地質構造解明に向けたボーリング調査
P09 青柳恭平ほか:2016 年熊本地震で益城町の低地に生じた並走断層群を横断する反射法地震探査
P10 Thystere Matondo Bantidi ほか: Reappraising the Generation Mechanism of the 1755 Lisbon Earthquake: Constraints from Historical Records and Tsunami Simulation
P11 安藤亮輔ほか: Trial of the Japanese Community Fault Model
P12 吉澤 楓:産総研活断層データベースを用いた活動性パラメータ間の関係と平均変位速度分布
P13 原田智也ほか:歴史地震カタログに含まれる実在が疑わしい地震

◆ 2023 年日本第四紀学会学会賞・学術賞受賞記念講演会参加報告

国立極地研究所 石輪健樹

2024年2月17日に2023年日本第四紀学会学会賞・学術賞受賞記念講演会が昨年同様にオンラインで開催され、約70名の参加者が集まった。学会賞を受賞した兵頭政幸会員（神戸大学）、学術賞を受賞した池原 実会員（高知大学）と堀 和明会員（東北大学）の記念講演が行われた。

兵頭政幸会員は「数十～数百年スケールの地磁気逆転・気候層序」と題し、研究経歴を絡めつつ古地磁気学を基礎とする研究成果を述べられた。大阪層群や千葉セクション、水月湖の堆積物コア試料を対象とした研究を紹介され、磁場強度の変化、花粉群集解析によるローカルな気候変動の復元とグローバルな気候変動との関係性、そして、磁場強度の変化が気候に与える影響など、古地磁気学を主とした多様な研究成果を知ることができた。

池原 実会員は「南大洋の古海洋変動研究成果と展望」と題した内容で、博士課程時から現在に至る南大洋を中心とした研究成果を述べられた。アルケノン古水温を用いた研究や海底地形から示される海流の変化をはじめとする極域の研究成果を掘り下げ、研究航海を立案したきっかけや大型研究計画、そして極域研究の展望について述べられた。異なる地域における研究航海の実施から採取試料やデータの分析を通じ、多様な研究成果を

生み出す過程が感じ取れた。

堀 和明会員は「完新世における沖積平野の地形発達と堆積システムの変化」と題し、堆積学的な知見から長江や天竜川流域、濃尾平野、石狩川など様々な地域の研究成果について紹介された。フィールドワークと詳細な試料分析から完新世のデルタにおける地形発達や海水準変動と土砂流入量との関係性についても述べられ、フィールドワークを通じた詳細な検討から生み出される研究成果とその過程が印象深かった。

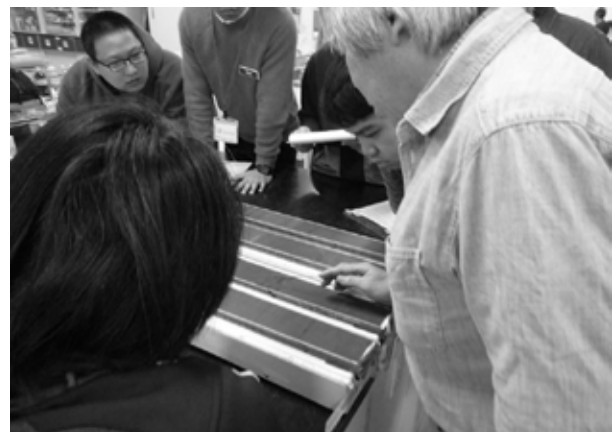
今回の講演では、受賞者のこれまでの素晴らしい研究成果を学び、その成果に行き着くまでの過程や受賞者たちの研究に向き合う姿勢の一端を垣間見ることができた。どの受賞者も堆積物を対象とする研究という点で共通しているが、そのアプローチや研究対象・興味は異なっており第四紀学という多様性を感じ取れる講演であった。フィールドワークや研究航海などで自ら試料を採取し、研究を進めていく過程は第四紀学のみならず地球科学における醍醐味であることを再確認した。研究成果から浮かんできた疑問から、新たな研究成果を生み出す、このようなサイクルを粘り強く繰り返す大切さを感じた。

◆ 「海洋コア岩相記載武者修行イベント」の開催報告

加 三千宣（愛媛大学）

次世代の地球科学を担う人材育成の一環として、コア試料の岩相記載経験者（博士後期課程院生、PD）を対象に、岩相記載のスペシャリスト（産業技術総合研究所 池原 研氏）を講師として招き、高知大学海洋コア国際研究所において、岩相記載武者修行イベントを2024年2月1日～4日に開催した（日本第四紀学会・高知大学海洋コア国際研究所主催、日本地球掘削科学コンソーシアム（J-DESC）・日本堆積学会共催）。参加者は定員の8名であった。詳しい内容については、参加者の下記の報告を参照頂ければと思うが、時間をかけて各自の岩相記載能力のアップデートを講師とアシスタントがサポートするというものであった。開催後のアンケートでは、すべての参加者から「岩相記載やその後の議論は非常に有意義であった」、「もう一度開催した場合、他の人に強く勧めたい、あるいはむしろ自分がもう一度参加したい」との感想を頂き、参加者の高い満足度が伺える。4

日間みっちり、その名の通り武者修行であったが、この機会を逃すまいと講師からの情報を全力で吸収する参加者の姿が印象的であった。講師の見事な指導のもとで、この中から世界クラスの岩相記載マスターが輩出されてもおかしくないと感じた。



参加報告（その1） 鈴木克明（産業技術総合研究所）

本イベントの告知が流れてきたのは2023年の10月頃で、私は調査航海の真っ最中だったが、案内文の「参加資格：記載経験者」という文言に興味を惹かれ、参加を応募した。私はこれまで湖沼や海洋コアの記載をそれなりの数こなしてきたが、コアスクールのような初学者向けの体系的な学習機会を逃し続けたまま「大人」の研究者になってしまったので、こうしたイベントで自身の記載感覚を客観的に見直せる機会は渡りに船だった。堆積物の記載担当者になる機会はしばしば、ある日突然やってくるので、こうしたイベントを内心望んでいる「記載経験者」は多いのではないかと思う。

イベントではその名のとおり、ひたすら海洋コアの記載を行った。前半は別府湾堆積物コア、後半は日本海溝堆積物コアについて、それぞれ4セクションずつの岩相記載を2時間程度かけて行った。記載結果については参加者同士でコアを取り囲んで議論した。なお、今回のイベントでは、文字通りの「肉眼」記載がほとんどで、スミアライド観察についてはほとんどカリキュラムに含まれていなかった。これは、時間的な制約もあったと思うが、その分「肉眼」での情報収集に集中でき、主題がより明確になったので、かえって良かったのではないかと思う。

たのではないかと思う。

当日集まった8名の参加者は多くが博士後期課程の学生で、堆積物記載の経験も少ない方が中心だったが、微古生物学、有機地球化学、火山灰分析など専門範囲が丁度よく分散しており、多様な観点で議論ができた。例えば、火山灰分析で言えば「火山灰層を識別する際に、粒子組成だけでなく堆積構造に着目する」といったような着眼点を教わることができたのは非常に有意義だった。また、コア記載作業や学問的な議論の合間に、道具類や細かい技術についてマニアックな話をするのも楽しかった。

研究をしていて、同一の堆積物試料を複数の人間が記載する機会はほぼ無く、IODP等の大規模な掘削プロジェクトの縮小傾向とともにますます少なくなると考えられる。そうした情勢で、このようなイベントの需要と意義は今後高まっていくと思われる。このような素晴らしいイベントを開催して下さった講師の池原 研氏（産業技術総合研究所）、加 三千宣氏（愛媛大学）、久保田好美氏（国立科学博物館）、そして本イベントに際して貴重な堆積物試料を提供して下さった関係研究者の皆様に感謝申し上げます。

参加報告（その2） 渡辺 樹（東京都立大学）

参加者は8名で、そのうち学生は私を含め5名であった。4日間で別府湾および日本海溝で採取された2本分のボーリングコア（それぞれ4m分）を対象に記載・報告・議論を行い、最終日に各自が学んだことを発表する日程であった。いずれものコアも貴重であることに加え、堆積環境が全く異なることを反映しそれぞれ層相も異なっていたため、実際に観察できたのは非常にありがたい経験となった。

私が実感した本イベントの特徴は以下の2点であった。1点目は座学の時間はほとんど無かったこと、2点目は議論の時間が豊富だったことである。本イベントの主眼はあくまで記載技術のアップデートであり、習得ではなかった。そのため、

参加者はこれまでの知識・経験をフルに活かして、かつ短時間で記載を行い、他の参加者に報告することが求められた。報告の場では、実際にコアを囲みながら参加者同士での議論が行われ、それぞれの考えの根拠を聞くことができ、参考となる点も多かった。参加者同士の議論の後、池原 研氏を含めて議論をし、アドバイスをいただく時間も設けられ、記載の仕方・考え方から堆積構造の解釈についてまで、多岐にわたって学ぶことができた。

最後に、貴重かつ刺激的な経験のできた本イベントで、講師を務めていただいた池原 研氏、機会を提供して下さった加 三千宣氏、池原 実氏、久保田好美氏に感謝申し上げます。

◆学生会員の皆さまへ「学生会員継続届け」提出のお願い

日本第四紀学会では、正会員(学生)会費(5,000円*)にて継続する場合、毎年在籍中であることを「学生会員継続届け」として提出していただくことになっています。

2024年度(2024年7月1日～2025年6月30日)を正会員(学生)として、継続希望される方は、A4判の用紙(様式自由・ワープロソフト使用)に、申請者の所属・学年・氏名・連絡先・指導教官氏名を明記のうえ、指導教官の署名または捺印を添えてお送りいただくか、有効期限が明記された学生証のコピーを2024年6月7日(金)までに日本第四紀学会事務局まで郵送またはメール添付にてお送り下さい。

本届が提出されない場合は、通常の正会員会費(9,000円)になりますのでご注意ください。

なお、ポスドク研究員等の有期雇用者、日本学術振興会特別研究員(PD)などは通常会員となります。
*会費については今後変更になる可能性があります。

送付先：〒169-0072 東京都新宿区大久保2丁目4番地12号 新宿ラムダックスビル
日本第四紀学会事務局

E-mail: daiyonki(at)shunkosha.com ((at)を@に変換してください)

◆2024年度第1回評議員会の案内

以下の内容で、第1回評議員会が開催されます。

日時：2024年7月7日(日) 9:00～12:00

形式：ハイブリッド(現地+Zoomシステムを用いたオンライン)

現地開催場所：早稲田大学大隈記念タワー(26号館)302室(東京都新宿区早稲田鶴巻町516)

議事内容(予定)：2024年日本第四紀学会学会賞・論文賞等受賞者の決定ほか

評議員会メンバーの方には、後日メーリングリストにて詳細内容をご連絡いたします。なお、会長経験者・名誉会員の方におかれましては、個別に案内を差し上げません。評議員会に参加される方は、7月5日(金)までに下記庶務委員会まで電子メールにてご連絡をお願いします。

メールアドレス：shomu(at)quaternary.jp [(at)の部分>@に変換してください]

(庶務委員会)

◆日本第四紀学会 2023 年度第 2 回通信執行部会議事録

開催期間：2024 年 1 月 14 日（日）10:40 ～ 1 月 21 日（日）23:59

下記の件について、日本第四紀学会編集委員会規程第 5 条（特集については、「特集提案書」を編集委員会で受け付け、執行部会で提案受理の判断を行う）および、日本第四紀学会執行部会規程第 10 条（執行部会では、会長が必要と認める場合には、会合の開催のほか、電磁的な方法を用いて、審議を行うことができる）に基づき、執行部会メンバーリストを用いた電子メールで審議し、承認された。

審議事項

1. 「特集提案書」の承認

特集提案書内容

■特集号趣旨

2023 年 3 月 5 日に開催した日本第四紀学会領域 4

主催シンポジウムのプロシーディングス

■題名

「縄文時代早期人とその生態—群馬県居家以岩陰遺跡を中心に—」

■投稿予定者（投稿・受理前のため題名は表示しません；* は非会員）

谷口康浩（國學院大學）・百原 新（千葉大）・工藤雄一郎（学習院女子大）・近藤 修*（東京大）・植田信太郎*（東京大）＋水野文月*（東邦大）・那須浩郎（岡山理科大）・山崎京美（國學院大）・大工原 豊*（國學院大）以上 8 編の予定

■特集号編集委員

工藤雄一郎（特集号委員長）・谷口康浩・米田 稔・百原 新・那須浩郎（特集号委員）・苅谷愛彦（編集委員会委員長）・原田仁美（書記）

■掲載予定巻号

第 64 巻第 1 号（2025 年 2 月）

以上

◆日本第四紀学会 2023 年度第 5 回執行部会議事録

日 時：2024 年 1 月 21 日（日）9:00 ～ 11:00

方 法：Zoom システムを用いたオンライン会議

出席者：鈴木毅彦（会長）、須貝俊彦（副会長）、山田和芳（庶務委員長）、苅谷愛彦（編集委員長）、堀 和明（会計委員長）、那須浩郎（広報委員長）、池原 実（行事委員長）、白井正明（渉外委員長）、横山祐典（領域 1 代表）、吾妻 崇（領域 2 代表）、小荒井 衛（領域 5 代表）

欠席者：北村晃寿（副会長）、里口保文（領域 3 代表）、海部陽介（領域 4 代表）

2024 年 1 月 1 日に発生した「令和 6 年能登半島地震」に対する学会の対応について緊急執行部会を開催して下記のとおり審議した。

審議事項

(1) 会長談話について

会長談話の内容について協議の上、確定した。発信方法について、学会公式ホームページに掲載することとして、掲載後、会員メンバーリストを用いて発信することとした。

(2) 防災学術連携体「令和 6 年能登半島地震・1 ヶ月報告会」への対応について

日本第四紀学会が参加している防災学術連携体主催の 2024 年 1 月 31 日開催予定の報告会について、日本第四紀学会として穴倉正展会員に「能登半島地震による海岸隆起と過去の隆起痕跡（海成段丘・生物遺骸）との関係」と題して報告を行っていただくこととした。

また、その他関連する学会や防災学術連携体の動きや状況について情報共有した。

(3) 学会誌「第四紀研究」の活用について

横山領域 1 代表から提案のあった、第四紀研究を用いた「令和 6 年能登半島地震」に関する緊急性・速報性の高い研究成果の掲載・公表について審議した。

苅谷編集委員長から原稿投稿から公表までの必要スケジュール、今後の編集状況、掲載のメリット・デメリットに関する説明があったのち、以下について審議した。

「令和 6 年能登半島地震」に関する緊急性・速報性の高い研究成果を第四紀研究に速やかに掲載する体制を整える方針であることが承認された。な

お、原稿種目に新たに「速報」を加えることについては、評議員会承認が必要となる投稿規定を変える必要があることと、すでに種目として存在する「短報」「資料」「口絵」として対応できることから、今回は見送ることとした。

広い分野を有する第四紀学の利点を活かし、地震動、地殻変動、津波堆積物、液状化、斜面崩壊（地すべり）、海底地形変化など、非会員も含めて関連する会員に広く働き掛けて、第四紀研究への投稿を積極的に依頼することとした。

(4) 学会主催シンポジウムについて

領域2および5を中心としてシンポジウム内容を固めていくこととした。基本方針としては、第四紀学の利点を活かした幅広い分野を網羅的に報告することとして、登壇者の候補について議論した。

開催時期や方法については、他学会や団体が主催するシンポジウムとの重複を避けるため、7月7日（日）に開催することを第一候補として、現地とオンラインのハイブリッド開催とすることとした。現地会場は早稲田大学早稲田キャンパス（東

京都新宿区）を会場とすることで調整を進めることとした。また、同日に評議員会を開催する方針を確認した。

(5) 会員による調査研究の状況について

(2)～(4)に関連して、会員や関連する学会会員が行っている調査研究についての情報を執行部会で共有した。

(6) 70周年記念出版本への追加掲載について

須貝副会長から現在準備を進めている出版本に関する現状報告ののち、「令和6年能登半島地震」に関する研究成果は項目に追加する方針が承認された。

(7) その他

荻谷編集委員長から、現状に即した投稿規定の微修正（文言変更）についての提案があった。

以上

◆日本第四紀学会 2023 年度第 6 回執行部会議事録

日 時：2024 年 2 月 3 日（土）9:00～13:10

方 法：Zoom システムを用いたオンライン会議

出席者：鈴木毅彦（会長）、北村晃寿（副会長）、須貝俊彦（副会長）、山田和芳（庶務委員長）、荻谷愛彦（編集委員長）、堀 和明（会計委員長）、那須浩郎（広報委員長）、池原 実（行事委員長）、白井正明（渉外委員長）、横山祐典（領域1代表）、里口保文（領域3代表）

欠席者：吾妻 崇（領域2代表）、海部陽介（領域4代表）、小荒井 衛（領域5代表）

オブザーバー：永峯菜穂子（春恒社）

主な報告事項

(1) 2024 年 1 月 19 日に開催された日本学術会議地球惑星科学委員会地球惑星科学国際連携分科会 INQUA 小委員会での審議内容が報告された。

(2) 学会設立 70 周年に関する記念事業の一つとして進めている出版本の準備状況について、現在、朝倉書店内の企画決定会議の決定を待っていることが報告された。今後の学会内の方針策定および承認プロセスについて継続議論することが確認された。また、項目の一つに「令和6年能登半島地震」

を追加することとした。

(3) 転載許可申請2件の承認を行った。

(4) 名古屋大学宇宙地球環境研究所の国際共同利用・共同研究拠点の認定申請に関するサポートレターを出した。

(5) 2023 年度第5回執行部会および第2回通信執行部会の議事録を承認した。

(6) 今後の会員数維持のための基礎資料を整理して、会員数と会員の年齢分布、会員歴についての分析結果が報告された。

(7) 第四紀研究第63巻第1号（「近畿における歴史時代の自然環境」特集号 論説3編、通常号解説1編・書評2編）の編集作業がほぼ完了し、まもなく会員へ発送することとなった。また、受理済み論文について、J-STAGE 公開に向けた作業を行った。

(8) 第四紀研究第63巻第1号（冊子体）より帯色を変更したことが報告された。

(9) 「令和6年能登半島地震」に関連する調査研究結果の第四紀研究への投稿を促すために、会員向け依頼文を作成した。投稿された原稿は速報性を重視した査読プロセスを経ること、および第四紀研究第63巻第2号（2024年5月発行）または第

3号(8月)に掲載することとした。

(10) 第四紀通信第31巻第1号を発行し、電子版(PDF版)を学会ホームページに掲載した。

(11) 2024年8月29日～9月2日に開催する2024年仙台大会について大会案内(第2報)を第四紀通信2月号にて周知・公表した。

(12) 日本地球惑星科学連合(JpGU)2024年大会(2024年5月26日～31日)において、学会が主催するセッションについての投稿状況が報告された。

(13) 防災学術連携体が企画した2024年3月25日(月)に開催するシンポジウム「人口減少社会と防災減災」について、日本第四紀学会を代表して中塚 武会員に「歴史上の気候変動と人口変動の関係性から学ぶ」というタイトルで講演いただくことが報告された。

(14) 領域1が主催した堆積物記載の“特訓”企画(2024年2月1日～4日、場所：高知大学海洋コア国際研究所)について、参加者が8名となり開催されたことが報告された。今後、第四紀通信にて開催内容を報告することとした。

(15) 領域3が主催した会員向け巡検「入間川沿いに露出する下部更新統仏子層の観察」(2023年12月16日)が開催され、案内者を含めて23名が参加した。巡検報告は北沢俊幸会員によって第四紀通信2月号にて報告した。

(16) その他各領域の活動状況について報告があった。

主な審議事項

(1) 会員数の維持をはかるため、学生・院生の会費(5,000円)の改定(減額)について議論し、会員バランスの回復・向上、学会誌の発行回数の減少などの理由から2,000円に減額することが承認された。今後、関連する会則の改正を庶務委員会、会計委員会にて原案を作成して、通信(電磁的)第3回執行部会を開催して審議承認すること、および3月21日に開催する2023年度第3回評議員会にて審議する方針とした。

(2) 終身会員制度については、他学会の状況を参考にしながら、現在の会員状況及び学会の予算状況から、導入年齢を65歳と設定して、会費を50,000円とし、終身会員の会員種別は新設せずに、会費の納入方法に新項目を設置する原案が承認された。予算シミュレーションを実施して、安定的な学会運営の妥当性を確認した上で、評議員会で原案に関して意見交換を行うこととした。

(3) INQUA小委員会を通じて打診のあったアジア第四紀会議(AsQUA)の開催について頭出しがなされた。2009年から4年ごと(2009年:中国、

2017年:濟州島、2021年: Covid-19により中止)に開催している同会議について、2025年に日本にて開催できないかと中国第四紀学会を中心に希望があがった。審議では、学会設立70周年の2026年にずらす、首都圏ではなく九州や京都などで検討するなど、開催時期、場所について議論した。開催可否も含めて引き続き継続審議とすることとした。

(4) 「令和6年能登半島地震」に関連する調査結果の第四紀研究への投稿依頼について、3月15日を締切日として、学会ホームページ、会員メーリングリストへ周知するとともに、現地調査を実施している会員についても個別に依頼することとした。なお、「口絵」については今年度予算予備費を活用して、学会がカラー印刷代を負担することとして、状況をみながら掲載数に上限を設けることとした。

(5) 学会ホームページリニューアルに関して、参考見積が提示され、執行額圧縮のため大幅なスリム化を図る必要があることが明らかになった。今後、広報委員会で現在のホームページで重複するコンテンツの削除、アーカイブ化、階層を整理し、英語表記の新規追加等の検討を行い、原案を作成することとした。この原案の審議・承認を行うため、通信(電磁的)第3回執行部会を開催すること、および3月21日に開催する2023年度第3回評議員会にて審議する方針とした。

(6) 東北大学災害科学国際研究所・防災科学技術研究所による連携型共同利用・共同研究拠点形成に関して、学会として支持することとし、サポートレーターを出すこととした。

(7) 一社)日本土壌肥料学会が主体となって文部科学省へ提出する「土壌教育に関する要望書」について、学会として賛同を表明することとした。

(8) 防災学術連携体が企画及び講演者を依頼している「令和6年能登半島地震・3ヶ月報告会(開催日:2024年3月25日)」について、日本第四紀学会を代表して北村晃寿副会長に講演いただくこととした。

(9) 学会設立70周年記念事業委員会(特別委員会)設置に関する内規を承認した。3月21日に開催する2023年度第3回評議員会にて審議する方針とした。

(10) 学会設立70周年に関する記念出版本に関する学会予算の使い方について検討をはじめることとした。

(11) 2023年度第3回評議員会にむけての準備作業について確認した。

以上

◆日本第四紀学会 2023 年度第 3 回通信執行部会議事録

開催期間：2024 年 3 月 9 日（土）8:15 ～ 3 月 15 日（金）24:00

下記 2 件について、日本第四紀学会執行部会規程第 10 条（執行部会では、会長が必要と認める場合には、会合の開催のほかに、電磁的な方法を用いて、審議を行うことができる）に基づき、執行部会メーリングリストを用いた電子メールで審議し、承認された。

審議事項

1. 学会ホームページリニューアル計画案の承認について

基本方針に従い、2023 年度予算にあわせた学会ホームページリニューアル作業を広報委員会原案のとおり進める。

主な基本方針

- ・html ページ数を 30 ページ程度に減らす。
- ・更新作業の回数を少なくできる構成とする。
- ・旧ホームページの情報はアーカイブとして残す。
- ・領域の活動のページを新設する。

2. 会員数維持のための会則一部改正の承認

日本第四紀学会 2023 年度第 6 回執行部会にて承認された会員数維持のための取組 (1) 学生会費適用者の会費の減額 (5,000 円から 2,000 円への減額)、(2) 会員終身制度導入による会費納入方法の新設 (導入年齢を 65 歳以上として、50,000 円の一括納入) にあわせて、会費収入シミュレーションによる今後の推移を確認するとともに、会則を一部改正する。

以上

◆日本第四紀学会 2023 年度第 3 回評議員会議事録

日 時：2024 年 3 月 21 日（木）9:00 ～ 12:30

方 法：Zoom システムを用いたオンライン形式

出席者：鈴木毅彦（会長）、北村晃寿（副会長）、須貝俊彦（副会長）、<以下、評議員> 三田村宗樹（議長）、横山祐典、阿部彩子、加 三千宣、平林頌子、吾妻 崇、奥村晃史、苅谷愛彦、佐藤善輝、白井正明、堀 和明、里口保文、青木かおり、岡田誠、納谷友規、水野清秀、井上 淳、齋藤めぐみ、中塚 武、那須浩郎、林 竜馬、山田和芳 以上 25 名

委任状：議長委任 12 通

オブザーバー出席：永峯菜穂子（事務局）

鈴木毅彦会長の冒頭挨拶の後、定足数の確認を行い評議員会が成立していることを確認した。以降は三田村宗樹議長によって議事が進められた。最後に北村晃寿副会長の挨拶で閉会となった。

1. 報告事項

(1) 2023 年度事業中間報告

資料 1 に基づき、担当の各委員長、領域代表または山田和芳庶務委員長が代読する形で報告が行われた。

(2) 2023 年度会計中間報告

資料 2 に基づき、堀 和明会計委員長から報告が行われた。

(3) 「令和 6 年能登半島地震」に対する対応について

2024 年 1 月 1 日に発生した「令和 6 年能登半島地震」に対して、資料 3 に基づき、山田和芳庶務委員長から学会としての対応状況についての報告が行われた。

(4) その他

人新世 (Anthropocene) の地質時代認定に関する現状について、加 三千宣評議員から説明が行われた。

2. 審議事項

(1) 正会員の会費に関する提案 (承認)

山田和芳庶務委員長および堀 和明会計委員長から、正会員数の近年の推移、会員の年齢構成や学生会費適用者数などの内訳、退会者の特徴・傾向についての説明が行われた。その後、会員数の減少による今後の会費収入のシミュレーションについての説明が行われ、会員数維持に関する以下 2 点の提案があった。

①学生会費適用者の会費を現行 5,000 円から 2,000 円とする。

② 65 歳以上の正会員は、50,000 円を一括納入した場合、終身会員とする。

これについての審議が行われ、会費減額以外の会員メリットの充実、アカデミア以外（一般の方、外国の方、コンサル関係者）への入会や会員維持への働き掛け、賛助会員への声掛け、INQUA 日本支部としてのプレゼンス向上、他学会との連携などについてさまざまな意見が出された。その後議決を行い、賛成多数にて承認された。

(2) 会則一部改正の提案（継続審議）

山田和芳庶務委員長から、正会員の会費に関する事項（第 7 条）および、会長、副会長の議決権に関する事項（第 14 条 7 項）について会則の一部改正について提案があった。

これについての審議が行われたが、会費減額の導入時期や終身制度導入にあわせた高齢者会員への配慮、その他現行に即した文言修正などの提案が複数の評議員からなされ、継続審議とした。

(3) 学会ホームページリニューアルについて（承認）

那須浩郎広報委員長から、2023 年総会で承認された学会ホームページのリニューアルについて、具体的な内容が説明された。

基本的な方針としては以下のとおりである。

- ・日本語および英語表記を合わせて html ページ数を 30 ページ程度に減らす。
- ・更新作業の回数を少なくできる構成とする。
- ・旧ホームページの情報はアーカイブとして残す。
- ・領域の活動のページを新設する。

審議の結果、賛成多数で承認された。

(4) 学会賞・学術賞の英語表記に関する情報整理について（承認）

北村晃寿副会長、および那須浩郎広報委員長から、学会ホームページ英語版に掲載する各年度の日本第四紀学会賞および学術賞について、各賞の英語タイトルを併記する提案があった。作成方法等について審議され、賛成多数にて承認された。

(5) 学会設立 70 周年記念事業委員会（特別委員会）設置の提案（承認）

資料 4 に基づき、山田和芳庶務委員長から学会設立 70 周年記念事業委員会（特別委員会）内規を策定して設置することについて説明が行われ、賛成多数にて承認された。また、委員長を鈴木毅彦

会長、委員を池原 実行事委員長、須貝俊彦普及啓発本編集委員長、山田和芳庶務委員長、2026 年大会実行委員長（現時点は未定、決定後評議員会にて承認）にすることについても、賛成多数にて承認された。

3. 意見交換

須貝俊彦副会長および山田和芳庶務委員長から、学会設立 70 周年記念事業として進めている普及啓発本の出版計画、ならびに関連する記念大会、記念シンポジウム、博物館連携等についての説明がなされた。今後メールを用いて評議員から意見を伺うこととした。

そのほか、会費長期滞納者リストを確認するとともに、次回の評議員会を 2024 年度第 1 回評議員会として 2024 年 7 月 7 日（日）に対面もしくは対面とオンラインのハイブリッドによる開催として、2024 年学会賞、論文賞等受賞者について決定することを確認した。

【資料 1】 2023 年度事業中間報告（2023 年 7 月 1 日～2024 年 3 月中旬までの経過）

1-1 庶務委員会（委員長：山田和芳）

(1) 2023-2024 年度の役員・委員会委員等を決定し、委嘱を行った。

(2) 総会を 2023 年 9 月 2 日に大会会場の早稲田大学所沢キャンパスでの対面と Zoom システムを用いたオンラインによるハイブリッド会議として行った。評議員会（第 1 回¹⁾：2023 年 7 月 2 日、第 2 回²⁾：2023 年 8 月 31 日、通信第 1 回³⁾：2023 年 8 月 11 日～18 日）を開催した。執行部会（第 1 回¹⁾：2023 年 7 月 31 日、第 2 回²⁾：2023 年 9 月 2 日、第 3 回¹⁾：2023 年 10 月 14 日、第 4 回¹⁾：2023 年 12 月 15 日、第 5 回¹⁾：2024 年 1 月 21 日、第 6 回¹⁾：2024 年 2 月 3 日、通信第 1 回³⁾：2023 年 8 月 11 日～18 日、通信第 2 回³⁾：2024 年 1 月 14 日～21 日、通信第 3 回³⁾：2024 年 3 月 9 日～15 日）を開催した。

※¹⁾ オンライン、²⁾ ハイブリッド（対面+オンライン）、³⁾ メールリングリストによる審議

(3) 入退会の申し出への対応を行い、会員名簿の管理を行った。2024 年 2 月 3 日時点での会員数は以下の通りである。

正会員 877 名（うち学生会費適用者 15 名）、賛助会員 9 社、名誉会員 18 名。

逝去：鎮西清高名誉会員（元会長：1995～1996 年度）

(4) 2024 年学会賞・学術賞・若手学術賞・論文賞・奨励賞の受賞候補者の推薦募集（締め切り：2024 年 2 月 29 日）を第四紀通信・HP 及び会員 ML を

通じて行った。また、学会賞選考委員会および論文賞選考委員会を立ち上げ、選考作業の依頼を行った。

(5) 転載許可申請に関する業務を行った（12件承認）。

(6) シンポジウム等の共催・後援に関連する業務を行った（共催：第33回社会地質学シンポジウム、後援：第66回粘土科学討論会）。

(7) 学術機関等への支援を行った（サポートレター送付：名古屋大学宇宙地球環境研究所、東北大学災害科学国際研究所）。

(8) オンライン委員会（特別委員会）継続に関する業務を行った。

(9) 顕彰規程等に関する検討委員会の答申（2022年8月）をうけて、顕彰規程および論文賞・奨励賞選考に関する内規改正を行った。また、それ以外の顕彰規程等の見直しを継続的に進めた。

(10) 日本第四紀学会ロゴマーク使用規程を設置した。

1-2 会計委員会（委員長：堀 和明）

(1) 会費のオンライン決済システムをはじめた。

(2) 2023年所沢大会の決済処理、第1回事務局委託経費等の支払処理、INQUA若手派遣支援、各領域活動に関する支払処理等を行った。

(3) 2023年度会計中間報告を取りまとめた（報告事項2、2023年度会計中間報告参照）。

(4) 領域活動に関する支払いルールについて検討した。

(5) 学会のZoom契約について見直しを進めた。

(6) 会員数維持のための会費見直しについて、他学会の状況を整理分析して基礎資料を作成した。

1-3 編集委員会（委員長：荻谷愛彦）

(1) 第四紀研究通常号及び2021年福岡シンポジウム特集号（奥野 充委員長）の編集を進めた。また「令和6年能登半島地震」に関する速報的論文（口絵および資料）の審査を進めて、順次受理した。いずれも第63巻第2号にまとめる予定である。(6)も参照。

(2) 2023年3月5日に開催した領域4主催シンポジウムのプロシーディングスとして、特集号「縄文時代早期人とその生態―群馬県居家以岩陰遺跡を中心に―（特集号委員長 工藤雄一郎会員）」の編集を開始した。

(3) 特集号として掲載予定の受理済み論文についてJ-STAGEの早期公開論文認証（エンバーゴ）を解除してフリーで閲覧できるようにした。

(4) 編集委員会（通常号）をオンライン及びメール審議形式で3回開催した。2024年3月17日現

在の通常号手持ち原稿（書評を除く）は受理前15編、受理済2編。

(5) 第四紀研究第63巻第1号より帯色を変更した。

(6) 「令和6年能登半島地震」に関する緊急性・速報性の高い研究成果を第四紀研究に速やかに掲載する体制を整え、会員向けの投稿依頼文を作成・周知した。

1-4 広報委員会（委員長：那須浩郎）

(1) 第四紀通信の編集および学会ホームページ、メーリングリストの維持管理を行った。

(2) 第四紀通信第30巻第3、4号、第31巻第1号を編集し、発行した。

(3) 上記第四紀通信各号の電子版（PDF版）を、それぞれ発行前月の下旬に日本第四紀学会ホームページに掲載した。

(4) 日本第四紀学会ホームページを通じて広報、情報提供等を行った。

(5) 日本第四紀学会会員メーリングリストを通じて広報、情報提供等を行った。2023年度の配信件数は2024年3月19日時点で81件（#1621～1701）。

(6) 今年度中に実施する日本第四紀学会ホームページリニューアルに関する準備を進め、リニューアル案をとりまとめた。

1-5 行事委員会（委員長：池原 実）

(1) 日本第四紀学会2023年大会を2023年8月31日（金）～9月4日（月）に早稲田大学所沢キャンパス（埼玉県所沢市）において対面方式で開催した（大会実行委員長：山田和芳会員、実行委員：久保純子会員、内記昭彦会員、植木岳雪会員、小森次郎会員、納谷友規会員、目代邦康会員、谷川晃一朗会員、工藤雄一郎前行事委員長）。9月4日実施予定であった専門巡検は悪天候のため中止したが、それ以外は予定通り実施できた。参加者は会員・非会員あわせて121名であった。9月1日、2日の一般研究発表は、口頭発表29件、ポスター発表15件であった。また、2日午後には総会と授賞式が対面とオンラインのハイブリッド方式で行われた。9月3日午前中にはシンポジウム「都市環境～ウェルビーイングな社会創出のための第四紀研究」が開催され、5件の講演があった。同日午後には普及講演会「武蔵野台地をとりまく関東平野の『でこぼこ』風景を読む」が開催され、鈴木毅彦会長による一般向け講演があった。8月31日にはプレ巡検「狭山丘陵南部、玉川上水を巡る」、9月3日午後にはアウトリーチ巡検「里山の風景を知り学ぶ、楽しい里山歩き会」が行われた。

(2) 2023年大会若手・学生発表賞受賞者の選考に

について選考委員会を立ち上げて行った。中西 諒会員（口頭若手）、レゲット 佳会員（口頭学生）、安東 梢会員（ポスター学生）がそれぞれ受賞した。（3）2023 年日本第四紀学会学会賞・学術賞受賞記念講演会の関係者調整およびポスター制作および告知を行った。

（4）2023 年日本第四紀学会学会賞・学術賞受賞記念講演会を 2024 年 2 月 17 日（土）9:30～12:30 にオンラインで開催した。事前申込者は約 110 名であり、当日の参加者は約 70 名だった。講演は、学会賞受賞者の兵頭政幸会員による「数十～数百年スケールの地磁気逆転・気候層序」、学術賞受賞者の池原 実会員による「南大洋の古海洋変動研究の成果と展望」、学術賞受賞者の堀 和明会員による「完新世における沖積平野の地形発達と堆積システムの変化」であった。

（5）2024 年大会を 2024 年 8 月 29 日（木）～9 月 2 日（月）に東北大学青葉山キャンパスを会場として開催する予定で準備を進めている（大会実行委員長：堀 和明会員、実行委員：目代邦康会員、西城 潔会員、池原 実行事委員長、ほか）。アウトリーチ巡検は 8 月 29 日、一般研究発表は 8 月 30 日・31 日、総会は 8 月 31 日、シンポジウム「東北の自然災害と第四紀学：最近の研究成果とこれから」は 9 月 1 日に公開／ハイブリッド形式にて、専門巡検「栗駒山の火山活動と岩手・宮城内陸地震」は 9 月 2 日を予定している。

（6）これまで首都圏（一都三県）と地方の隔年開催としていた学会大会について 2025 年大会を地方、2026 年大会を首都圏と順番を入れ替えた。

（7）2025 年大会の開催地候補として島根県松江市で実施が可能か、検討を進めている。

1-6 渉外委員会（委員長：白井正明）

（1）日本地球惑星科学連合（JpGU）関係

JpGU 学協会長会議が 2023 年 12 月 5 日（火）にオンラインにて開催され、鈴木会長が参加した。また JpGU 学協会長会議幹事会が 2024 年 2 月 27 日（火）にオンラインにて開催され、鈴木会長・北村副会長が参加した。2024 年大会（5 月 26 日～31 日）のセッションとして単独開催する『第四紀：ヒトと環境系の時系列ダイナミクス』（5 月 30 日 AM1・AM2）は総数 23 講演、共同開催する『活断層と古地震』（5 月 26 日 AM1・AM2・PM2）は総数 27 講演となっている。その他 3 セッションを含めて 5 セッションを学協会セッションとして指定した。

（2）防災学術連携体関係

防災学術連携体が 2024 年 1 月 31 日（水）に緊急開催した「令和 6 年能登半島地震・1 ヶ月報告会」

について、日本第四紀学会を代表して宍倉正展会員が「能登半島地震による海岸隆起と過去の隆起痕跡（海成段丘・生物遺骸）との関係」と題して報告を行った。また、3 月 25 日（月）に予定している同連携体主催「令和 6 年能登半島地震・3 ヶ月報告会」には、北村晃寿会員（副会長）が日本第四紀学会を代表して講演する。さらに、2024 年 3 月 25 日（月）に開催されるシンポジウム「人口減少社会と防災減災」において、中塚 武会員が日本第四紀学会を代表して、「歴史上の気候変動と人口変動の関係性から学ぶ」と題した講演を行う。

1-7 領域 1「気候変動及び海洋の諸プロセス」（領域代表：横山祐典）

（1）海洋コア岩相記載武者修行イベントを 2024 年 2 月 1 日（木）～4 日（日）の期間に、高知大学海洋コア国際研究所にて開催した。参加者は 8 名であり、池原 研会員を講師として、加 三千宣会員、久保田好美会員、池原 実会員がサポートしながら実施した。なお、参加者の中で会員 1 名に対して、領域活動費から旅費サポートを行った。

（2）JpGU2024 のユニオンセッション「人新世・第四紀の気候および水循環（U-03）」を共催する。

（3）2024 年度東京大学大気海洋研究所の共同利用研究集会に「古気候のモデルとデータの比較に関する研究集会」の開催提案をした。

1-8 領域 2「陸上の諸プロセス」（領域代表：吾妻崇）

（1）2021 年 7 月 24 日・25 日に開催した共催遠隔シンポジウム「陸域アーカイブから読む環境変遷と巨大災害：防災・減災に向けて」の内容を第四紀研究の特集号とする編集作業を進めた。

（2）「令和 6 年能登半島地震」に関する学会主催シンポジウムの内容について領域 5 とともに検討をはじめた。

1-9 領域 3「層序と年代基準」（領域代表：里口保文）

（1）2023 年大会時に中止した専門巡検の代替として、領域 3 活動の巡検「入間川沿いに露出する下部更新統仏子層の観察」を、埼玉県入間市において 2023 年 12 月 16 日に実施した。納谷友規会員、水野清秀会員が案内者として、23 名（案内者を含む）で行われた。

1-10 領域 4「人類と生物圏」（領域代表：海部陽介）

（1）2023 年 12 月 2 日に開催した日本植生史学会・日本花粉学会合同の公開シンポジウム「南九州の森、火山、ヒト」を領域 4 と共催で実施した。林

尚輝・栞畑光博・三宅 尚・能城修一会員が話題提供者として講演を行った。

(2) 2023年3月5日(日)に開催した公開シンポジウム「縄文時代早期人とその生態—群馬県居家以岩陰遺跡を中心に—」のプロシーディングスを第四紀研究特集号としてまとめるべく提案した。

1-11 領域5「現代社会に関わる第四紀学」(領域代表:小荒井 衛)

(1)「第四紀とは」の改訂版パンフレットの作成作業を進めた。

(2)「令和6年能登半島地震」に関する学会主催シンポジウムの内容について領域2とともに検討をはじめた。

1-12 オンライン委員会(委員長:久保田好美)

(1) 2023-2024年度の学会行事等をweb上のカレンダーを作成してアップした。

【資料2】 2023年度会計中間報告

P20～21 参照。

【資料4】 学会設立70周年記念事業委員会(特別委員会)設置について

本会は2026年に設立70周年を迎える。そこで、本会会員が中心となって行ってきた第四紀学に関する研究成果を広く社会に普及すること、会員のさらなる専門知識と技術の向上をめざす機会創出のため、学会設立70周年記念事業委員会を期間限定(2023～2026年度)で設置する。

日本第四紀学会学会設立70周年記念事業委員会内規

(2024年3月21日, 評議員会にて決定)

[目的]

1. 本会が実施する学会設立70周年記念事業を推進し、調査研究成果を効果的かつ広く社会に普及するため、日本第四紀学会会則第17条3に基づき、本会に特別委員会の学会設立70周年記念事業委員会を設置する。

[期間]

2. 本委員会の設置期間は、評議員会承認後から2027年6月30日までとする。また、委員の任期も同じとする。

[委員会の構成]

3. 本委員会は、評議員の中から選出された委員長と、正会員の委員からなり、委員数を5名程度とする。

[活動内容]

4. 本委員会は以下の内容を含めた活動を行う。

(1) 普及啓発本の出版に関する活動。

(2) (1)に関連する講演会、野外見学会等事業の企画実施。

(3) 本会会則第3条2項に示される2026年度に実施する大会や関連事業との連絡・調整。

[会議の出席権限]

5. 本委員会の委員は、評議員会及び執行部会にオブザーバーとして出席することができる。

以上

日本第四紀学会

2023年度収支中間会計報告
(2023年7月1日～2024年1月31日現在)

収入の部

(単位：円)

科目	予算額①	1月31日現在②	増減②-①	執行率②/①	摘要
会費収入	8,045,000	7,477,000	-568,000	92.9%	正会員862名、学生会員15名、賛助9社 (2024年1月31日時点)
正会員会費収入	7,845,000	7,277,000	-568,000	92.8%	通常会員会費 7,157,000円 学生会員会費 70,000円 海外会員会費 50,000円
賛助会員会費収入	200,000	200,000	0	100.0%	20,000円×9社(10口)
誌代	600,000	14,700	-585,300	2.5%	講演要旨集
別刷代・超過頁代収入	250,000	76,530	-173,470	30.6%	第62巻第2号・第62巻第3号 別刷・カラー代等
雑収入	150,000	121,923	-28,077	81.3%	学術著作権使用料分配金
利子収入	1,000	65	-935	6.5%	預金利息
広告料収入	0	0	0		2023年大会予稿集広告無しのため
役員選挙積立金取崩収入	0	0	0		
INQUA対策積立金取崩収入	0	0	0		
名簿作成積立金取崩収入	0	0	0		
予備費積立金取崩収入	0	0	0		
収入合計	9,046,000	7,690,218	-1,355,782	85.0%	
前期繰越金	22,578,486	22,578,486	0	100.0%	
合計	31,624,486	30,268,704	-1,355,782	95.7%	

支出の部

(単位：円)

科目	予算額①	1月31日現在②	増減②-①	執行率②/①	摘要
会誌発行費	3,101,200	865,205	-2,235,995	27.9%	第四紀研究 第62巻第3号・第4号
印刷費	1,500,000	851,895	-648,105	56.8%	第62巻第3～4号 (J-STAGE掲載費用含)
編集費	300,000	0	-300,000	0.0%	※年度末精算
編集人件費	1,201,200	0	-1,201,200	0.0%	※年度末精算
別刷印刷費	100,000	13,310	-86,690	13.3%	第62巻第3号
会誌・会報発送費	600,000	221,386	-378,614	36.9%	会誌・通信発送関連費用
会報発行費	785,000	427,369	-357,631	54.4%	第四紀通信 第30巻第3～4号
印刷費	500,000	256,520	-243,480	51.3%	
編集費	75,000	92,849	17,849	123.8%	第四紀通信編集費
編集人件費	210,000	78,000	-132,000	37.1%	第四紀通信編集アルバイト代
学会HP運営費	1,670,000	53,382	-1,616,618	3.2%	HP更新アルバイト代、ドメインサービス
大会運営準備金	380,000	0	-380,000	0.0%	
巡検準備金	100,000	0	-100,000	0.0%	
講演会・シンポジウム費	50,000	0	-50,000	0.0%	
予稿集印刷費	0	0	0		
学会賞等顕彰費	60,000	30,140	-29,860	50.2%	学会賞等賞状作成費
会議費	150,000	117,050	-32,950	78.0%	年間Zoom利用料、議事録作成費用
通信費	200,000	198,663	-1,337	99.3%	会費請求書送付費、事務通信費等
旅費・交通費	250,000	0	-250,000	0.0%	
印刷費	350,000	53,708	-296,292	15.3%	コピー代等
業務委託費	2,850,000	1,045,000	-1,805,000	36.7%	第1回業務委託費概算
領域活動費	750,000	15,900	-734,100	2.1%	
領域1	150,000	0	-150,000	0.0%	
領域2	150,000	0	-150,000	0.0%	
領域3	150,000	15,900	-134,100	10.6%	巡検「入間川沿いに露出する下部更新統仏子層の観察」(2023年12月16日)
領域4	150,000	0	-150,000	0.0%	
領域5	150,000	0	-150,000	0.0%	
INQUA対策費	0	0	0		
役員選挙費	0	0	0		
名簿作成費	-	-	-	-	
INQUA対策積立金繰入支出	500,000	0	-500,000	0.0%	
役員選挙費積立金繰入支出	200,000	0	-200,000	0.0%	
名簿作成積立金繰入支出	-	-	-	-	
予備費積立金繰入支出	0	0	0		
加盟学協会分担金支出	50,000	20,000	-30,000	40.0%	防災学術連携体
国際科学技術コンテスト協賛金支出	50,000	0	-50,000	0.0%	
支払手数料	0	205,017	205,017		会費Web決済関連支払手数料(りそな)
雑費	50,000	5,153	-44,847	10.3%	振込手数料等
予備費	200,000	0	-200,000	0.0%	
支出合計	12,346,200	3,257,973	-9,088,227	26.4%	
次期繰越金	19,278,286	27,010,731	7,732,445	140.1%	
合計	31,624,486	30,268,704	-1,355,782	95.7%	

日本第四紀学会

貸借対照表
(2024年1月31日現在)

(単位：円)

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
流 動 資 産		流 動 負 債	
郵便振替	4,259,159	前受会費	63,000
小口現金	2,365,017		
普通預金	20,400,059	小 計	63,000
現金(事務局)	31,496	正 味 財 産	
未収会費	18,000	名簿作成積立金	0
固 定 資 産		役員選挙積立金	0
定期預金	10,000,000	INQUA対策積立金	0
		予備費積立金	10,000,000
		次期繰越金	27,010,731
		(前期繰越金)	22,578,486)
		(当期収支差額)	4,432,245)
		小 計	37,010,731
合 計	37,073,731	合 計	37,073,731

財産目録
(2024年1月31日現在)

(単位：円)

資 産 の 部		金 額
科 目	摘 要	金 額
郵便振替	郵便局	4,259,159
小口現金	編集書記手許金	2,365,017
普通預金	みずほ銀行早稲田支店	16,905,167
	三井住友信託銀行本店営業部	206,909
	りそな銀行新宿支店 (Web決済専用口座)	3,287,983
現金	事務局手持ち金	31,496
未収会費		18,000
流動資産合計		27,073,731
定期預金	三井住友信託銀行本店営業部	10,000,000
固定資産合計		10,000,000
合 計		37,073,731

負 債 の 部		金 額
科 目	摘 要	金 額
前受会費	2024年度以降年会費	63,000
合 計		63,000

正 味 財 産 の 部		金 額
科 目	摘 要	金 額
名簿作成積立金	名簿作成積立金	0
役員選挙積立金	役員選挙積立金	0
INQUA対策積立金	INQUA対策積立金	0
予備費積立金	予備費積立金	10,000,000
次期繰越金		27,010,731
	前期繰越金	22,578,486
	当期収支差額	4,432,245
合 計		37,010,731

◆会員からのお知らせ 大阪地学資料室の開設のご案内

岡田篤正

1960年代後半頃から収集してきた蔵書（和書・洋書）や資料（学会誌・各種報告書・関連雑誌・学会誌・著者別の別刷り等）が自宅や研究室に溢れるようになりました。私（岡田）も高齢となり、活用することも少なくなりましたので、それらの多くを下記の場所に移動・保管を致しました。地学的な調査に従事される方や研究者等には、これらを利活用して頂けたらと思います。

和書は地形や第四紀地質学の分野を中心に、全集や地学関連の分野も多く含まれています。新収日本地震史料はほぼ全てがあります。日本地方地質誌・岩波講座・地球科学（1～16全巻）・共立出版[日本の地質（1～9全巻）]・そして文庫（地図の風景）等の全集も含まれています。

洋書は主要（有名）な教科書や地形・地質の専門書に限られていますが、欧米（主にアメリカ合衆国）やニュージーランド、中国などの活断層に関連する本に限られています。

これらの著書（著者名・書名）は数が多いことから、逐一書き出せませんが、PDF版（下記参照）で検索できるようにしています。

学会誌等は地震Ⅱ・地学雑誌・地球科学・地質学雑誌・日本地質学会 News・地質学論集（1部）・第四紀研究（講演要旨集を含む）・地理学評論（地理学会要旨集・英語版も含む）・応用地質等が主です。地震ジャーナル・地震予知連絡会会報等・地理（第5巻1960年以降のほぼ全て）や月刊地球（第1巻：1980年以降の前半のほぼ全て）も含まれています。

各種報告書は、1995年兵庫県南部地震後に行われた地方自治体（主に近畿圏）の活断層調査報告書（1部CDを含む）が目玉ですが、これらに関連した資料や報告書もあります。また、一部地域の市史・町史（自然編）も含まれています。

別刷類は私が受領したりコピーしたりした論文類を主として筆頭者別のファイルに入れておりますが、数が多いことから、論文名を逐一リストにあげて、検索化できるようにはできておりません。

なお、これらの蔵書や資料類のほとんどはリスト化されており、PDF版で検出・検索できるようにしておりますので、連絡あるいはお知らせ下さい。

また、一部の蔵書や資料は執筆中ないし執筆予定のため、まだ手元に置いているものもあります。特に希望されるものがありましたら、岡田へメールで問い合わせして下さい。

●所在地

〒567-0059 大阪府茨木市清水2丁目5-5

関西電力株式会社 関西電力グループアカデミー

茨木研修センター 第1校舎1F 土木建築図書室内 大阪地学資料室

●主な収蔵資料

学会誌等

第四紀研究（講演要旨集を含む）：第1巻からほぼ揃っている

地質学雑誌（第74巻（1968）～全。日本地質学会ニュース・地質学論集（1部））

地震Ⅱ（20巻（1967）～）（地震学会講演要旨集）

地震ジャーナル（1967～）

地学雑誌（1960年代後半以降）

地理学評論（1960年代中頃以降、地理学会要旨集・英語版も含む）

地球科学・・・応用地質等（1960年代以降、2010年代頃まで）

地震予知連絡会会報等

地理（第5巻：1960年以降ほぼ全て）

月刊地球（第1巻：1980年以降の前半がほぼ全て含まれるが、後半は無い）

講座～シリーズ等

岩波講座 地球科学1～16全、岩波書店

日本の地質（共立出版KK.）

日本の地形1～7（東大出版会）

日本の自然（地域編）1～8、岩波書店

日本の自然（対象別）1～8、岩波書店

日本地質図大系（大版地質図）全8冊、朝倉書店

地図の風景（そしえて文庫；日本全国約 20 冊）
 愛知県土地分類基本調査（5 万分 1）国土調査（全て）
 地震調査委員会報告集（1998～2005）
 活断層・古地震研究報告（産総研）（第 1 号（2001）～）
 活断層調査成果報告会平成 7～（2005～）
 地図や空中写真類、一部の CD・DVD、ビデオテープは未整理
 地質調査所・産総研の 5 万分の 1 地質図、同説明書（約半分程度）

●関係者連絡先

岡田篤正：E-mail：cacil609(at)hcn.zaq.ne.jp

●保管資料検索（PDF 版）についての問い合わせ先

株式会社ニュージェック 地圏グループ 神谷忠克
 TEL：06-6374-4615 E-mail：kamiyatd(at)newjec.co.jp

●資料の閲覧方法について

- ・閲覧は原則平日水曜日（10 時～15 時、ただしゴールデンウィーク、年末年始、祝日前後となる場合を除く）とし、1 週間前までにメールにより、閲覧希望日時を明記の上、事前の申し込みをしてもらい、日時調整することとしています。
- ・閲覧者は、施設ご利用の注意点及び閲覧室に掲示された注意事項を厳守の上、資料を閲覧して下さい。
- ・著書や資料をデジタル化し（例えばスキャンして PDF にする）、それを配布またはオンラインで公開することは著作権法に違反する可能性がありますので、お止めください。
- ・閲覧室にコピー機はありません。周辺のコンビニにコピー機があります。
- ・書籍の貸出は、2 週間程度までとします。閲覧室にある貸出簿にご記入の上、借用をお願いします。
- ・資料の返却は、持参頂くことが望ましいですが、難しい場合は郵送でも構いません。
- ・郵送先 〒567-0059 大阪府茨木市清水 2 丁目 5-5
 関西電力株式会社 関西電力グループアカデミー 茨木研修センター内
 再生可能エネルギー事業本部 運営グループ（土木図書返却窓口）
 TEL 070-2907-0225（マネージャー） 070-2542-4093、070-2452-4094、070-8691-8474
- ・問い合わせ先 関西電力株式会社 土木建築室 自然リスク・構造評価グループ
 チーフマネージャー 岩森暁如（いわもりあきゆき）
 E-mail：iwamori.akiyuki(at)d5.kepeco.co.jp

大阪地学資料室 ご案内図



茨木研修センター ご案内図



★★★ 情報発信を希望される方へお願い ★★★

日頃から日本第四紀学会のコミュニティへ情報提供くださり、ありがとうございます。
提供された情報の円滑な配信を目指して、広報委員会から皆様へ、以下のお願いを致します。

- (1) 情報発信の手段として、ML の積極的な使用をお願い致します。
 - 1) メール本文に配信内容のタイトルと簡単な情報を書いて広報委員会アドレス (jaqua-koho(at)quaternary.jp) へご投稿ください。
メール本文の情報は常識的な長さでお願い致します。
 - 2) 広報委員会にて文言の微修正を行う、または投稿した方に情報の修正・追加をお願いすることがあります。
 - 3) イベント等の周知などで当該イベントの URL がある場合、その URL も載せてください (ただし上記の通り、メール本文にも簡単な情報も載せるよう、お願い致します)。
 - 4) 第四紀学にほとんど関連しないものについては配信をお断りすることがあります。
 - 5) 学会、研究集会のお知らせでも、第四紀学会の会員間で参加費等に不平等が生じるものは配信しませんので、ご了承ください。
 - 6) 添付ファイルは ML に配信致しません。

(2) 第四紀通信への掲載依頼、日本第四紀学会 HP への掲載依頼も受け付けておりますが、基本的に、主催・後援イベントなど第四紀学会として会員に広く周知する必要があると認められる情報、「公募・助成」情報(こちらは HP のみの掲載となります)等に限られます。詳しくは広報委員会アドレス宛に、個別にご相談ください。

(3) 第四紀通信の表紙用の写真(または作成した画像)を受け付けています。詳細は第四紀通信第 27 巻第 6 号の巻末をご覧ください。

(4) 第四紀通信は 2 月・5 月・8 月・11 月の初旬に刊行予定としていますが、情報をなるべく早く皆様にお届けできるように、版下が完成した段階でホームページに掲載していますので、ご利用ください。

日本第四紀学会広報委員会：那須浩郎・田村 亨・石村大輔・竹下欣宏・三田村宗樹
広報書記：岩本容子・奥村公弥子
日本第四紀学会ホームページ <http://quaternary.jp/> から第四紀通信バックナンバーの PDF を閲覧できます。

日本第四紀学会事務局

〒169-0072 東京都新宿区大久保 2 丁目 4 番地 12 号 新宿ラムダックスビル
株式会社春恒社 学会事業部内

E-mail : daiyonki(at)shunkosha.com 電話 : 03-5291-6231 FAX : 03-5291-2176